

「生涯活躍のまち」について

◎地方創生の観点から、中高年齢者が希望に応じて地方や「まちなか」に移り住み、地域の多世代の住民と交流しながら、健康でアクティブな生活を送り、必要に応じて医療・介護を受けることができる地域づくりを目指す。 (生涯活躍のまちHP: <http://www.kantei.go.jp/jp/singi/sousei/about/ccrc/index.html>)

移住希望者

希望に応じた住み替えの支援



移住相談窓口など

移住・
住み替え



空き家の改修、
サ高住の整備など

- 大都市から地方への移住や、地域内で「まちなか」への住み替え等。
- 移住希望者のニーズを踏まえたきめ細やかなコーディネート。

健康でアクティブな生活の実現



就労・起業支援など



生涯学習、リカレント教育など

- 健康づくりや就労・生涯学習など社会的活動への参加等により、健康でアクティブな生活を目指す。
- 中高年齢期の早目の住み替えで地域での活躍を期待。

地域の多世代の住民との協働



多世代交流センター、
地域サロンなど

大学等との連携など

- 入居者間の交流のみならず、地域の若者等多世代と交流ができる環境を実現。大学等との連携も。

地域包括ケアシステムとの連携



生活支援・介護予防
健康管理・健康づくり

- 入居者と地元住民へのサービスが一体的に提供される環境を整備。

「継続的なケア」の確保



医療・介護サービス

- 医療介護が必要となった時に、人生の最終段階まで尊厳ある生活が送れる体制を確保。

官民連携の取組



- 自治体に加え、移住支援やまちづくりを行う事業者、医療・福祉サービス事業者、地域住民などの参画により、多様な意見が適切に反映されたまちづくりを推進するとともに、持続可能なサービスを提供。

◎「生涯活躍のまち」の地域再生計画制度（24計画を認定（平成31年3月現在））※下線の地方公共団体は、地域再生計画に加え「生涯活躍のまち形成事業計画」を策定。

北海道函館市、北海道東川町、青森県弘前市、岩手県雫石町、山形県酒田市、茨城県阿見町、千葉県匝瑳市、千葉県長柄町、千葉県御宿町、新潟県南魚沼市、石川県白山市、山梨県都留市、長野県佐久市、静岡県南伊豆町、兵庫県三木市、鳥取県南部町、岡山県奈義町、広島県安芸太田町、徳島県三好市、高知県高知市、福岡県北九州市、大分県別府市、鹿児島県鹿児島市、鹿児島県伊仙町

◎関係府省からなる支援チームにより地方公共団体の取組を促進（18団体（平成30年12月現在））

北海道函館市、岩手県雫石町、茨城県阿見町、千葉県匝瑳市、千葉県長柄町、新潟県南魚沼市、石川県輪島市、山梨県都留市、長野県佐久市、静岡県南伊豆町、兵庫県三木市、鳥取県南部町、岡山県奈義町、広島県安芸太田町、徳島県三好市、福岡県北九州市、大分県別府市、鹿児島県伊仙町

⇒「生涯活躍のまち」の取組を進めている地方公共団体数：100団体（2020年）を目指す。

（既に「生涯活躍のまち」に関する基本計画等の構想を策定している団体数：89団体（平成31年3月末現在））

1. 国による支援の強化について

- 国のサポートを強化し、都道府県等と連携したバックアップ体制をより一層推進する。
- 具体的には、
 - ① **アウトリーチ支援**…**国の担当職員が当該団体を訪問**し、「生涯活躍のまち」に関する構想等の策定に当たっての課題解決等について**共に取り組む**とともに、当該構想等と近い取組の生涯活躍のまち形成支援チーム対象団体等への現地視察・ヒアリングへの同行等の支援を実施。
 - ② **集団支援（研修等）**…**都道府県単位**で、生涯活躍のまちの制度や先進事例を紹介するための**研修の開催**や、自治体・事業者向けセミナー「生涯活躍のまち勉強会・意見交換会」を国において定期的に開催。
- ※ 生涯活躍のまち形成支援チーム対象団体に対しても引き続き支援を継続するとともに、「先駆的団体」として、取組を進める他の団体に対して積極的に紹介。
- 都道府県におかれては、支援を希望する市町村からの要望やニーズについて掘り起こし、国への情報提供をいただくとともに、自治体向け説明会の開催や研修の場の調整等のご協力をお願いしたい。
- 生涯活躍のまちHP上の関係各省庁等の参考施策集を6月を目途に修正。
(参考URL：<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/sousei/about/ccrc/zenbunesaku.pdf>)

【生涯活躍のまち】取組状況

地域再生計画策定 (21)

構想・基本計画策定 (89)

取組意向あり (216)

推進意向なし (1,502)

これまでの支援：
アウトリーチ支援中心

これまでの支援：
集団支援（研修等）

これからの支援：
アウトリーチ支援中心

これからの支援：
集団支援（研修等）



1. 国による支援の強化について（具体的な事例）

【アウトリーチ支援：A町の例】 (H31.3～支援継続中)

- **国の担当者が3月に現地を訪問**し、以下のとおり相談を受ける。
 - 町長の公約で「生涯活躍のまち」を打ち出しており、町のスタイルに合ったものを考えたいが、生涯活躍のまち＝高齢者の隔離施設というイメージがついている。
 - 現時点では、①町内の調整区域で移住定住の促進、②駅前拠点を整備し多世代交流の実現といったプランを、地方創生推進交付金を活用して実施することを想定している。
- ➡ 随時進捗状況を確認しつつ、必要に応じ現地を訪問し、生涯活躍のまちのイメージの払しょく、構想等の策定、地方創生推進交付金の活用等について支援を継続。

【アウトリーチ支援：B町の例】 (H30.6～支援継続中)

- A町担当者から「生涯活躍のまち」に関する勉強会の開催依頼を受け、**国の担当者が町へ出向き**、各地域の取組事例の紹介を中心とした**勉強会を開催**。
 - その後も、生涯活躍のまちの取組と地位包括ケア、障害福祉など既存の政策との関係等について**勉強会を複数回開催**。
 - 勉強会で町の担当者が注目した地域の取組事例について、**国の担当者とともに実際に現場に出向き**、取組内容を視察。
- ➡ 視察した取組事例の町での実現可能性を検討しつつ、次期地方版総合戦略へ「生涯活躍のまち」を位置づけることについて検討中。

【集団支援：C町の例】 (H30.12実施)

- C町内の大学が主催する「まちづくりシンポジウム」に**講演者・パネラーとして国の担当者が参加**。
 - 町長等もパネラーとして参加するとともに、学生を含めた住民、医療・福祉関係者、大学関係者等多くの参加者が集まる中で、**国の担当者から「生涯活躍のまち」の制度説明、C町への親和性や他の市町村の好事例紹介**を実施。
- ➡ C町での取組推進の機運醸成を図る。



➡ この他、意向調査などを踏まえたアウトリーチ支援を数十市町村において実施中。

1. 国による支援の強化について（事業者勉強会）

- 国において、「生涯活躍のまち」の取組に関するテーマを定め、定期的に勉強会・意見交換会を開催。
- 昨年度は3回実施。参加者は延べ326人。参加自治体へのアンケートやご要望をもとにテーマを設定。
- 各都道府県、市町村におかれては、本勉強会への積極的なご参加をお願いしたい。

平成30年度第1回

自治体・事業者向けセミナー

生涯活躍のまち

勉強会・意見交換会

参加無料
要申込み

第1部 14:00-15:00

『スマートウェルネス住宅等
推進事業について』

講師：山崎尚氏

(国土交通省住宅局安心居住推進課 課長補佐)

サービス付き高齢者向け住宅整備のほか、平成29年10月に施行された新住宅セーフティネット制度など、今後の高齢者等の住まいに向けた国の支援等についてお話しします。

第2部 15:00-16:00

『不動産証券化による
リスク分散と資金調達』

講師：上田彰利氏

(フィンテックグローバル開発役員 投資銀行事業部長)

民間資金を活用したヘルスケア施設等の整備を多数アレンジメント、プロジェクトのリスク分散や証券化の仕組みなどについて、同社が手掛けられた事例と共にご説明いただきます。

第3部 16:00-17:00

参加者による事例紹介・意見交換会

日時 2018年6月1日(金) 14:00-17:00

会場 三田共用会議所
3階大会議室
(東京都港区三田2丁目1-8)

参加を希望される方は、
○氏名・所属(部署又は社名)
○電話番号
○E-mailアドレスを明記の上、
右記メールアドレス宛にお申し込み下さい(5月24日(木)〆切)。

【お問い合わせ・お申し込みは】

内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局
(担当：中島、服井、上村、藤野、橋内)
TEL：03-6257-1414
URL: <http://www.kantei.go.jp/jp/shing/sosoni/about/ccrc/index.html>
MAIL: nihonban-ccrc.n2c@cas.go.jp

平成30年度第2回

自治体・事業者向けセミナー

生涯活躍のまち

勉強会・意見交換会

参加無料
要申込み

今回のテーマ「コミュニティづくり」

13:30-14:30 講演

『コミュニティデザインについて』

講師：西上ありさ氏 (studio-L創立メンバー)

早稲田大学公共経営大学院修了。2007年から2012年にかけ、海士町のまちづくりに携わる。現在は、地域の課題を地域に住む人たちが解決するためのコミュニティデザインの実践に国内外で取り組む。
主な仕事に、住民参加による総合計画の策定、集落診断・集落支援、病院づくり、美術館づくり、地域包括ケア、毎日を楽しむCo-minkan活動などがある。
「海士町総合振興計画」「studio-L伊賀事務所」「しまのわ2014」でグッドデザイン賞、「親子健康手帳」でキッズデザイン賞などを受賞。

14:30-16:00 意見交換会

講演の内容を踏まえ、参加者間や講師との意見交換を行い、コミュニティづくりについての理解を深めます。

日時 2018年8月24日(金) 13:30-16:00

会場 三田共用会議所
3階大会議室
(東京都港区三田2丁目1-8)

参加を希望される方は、
○氏名・所属(部署又は社名)
○電話番号
○E-mailアドレスを明記の上、
右記メールアドレス宛にお申し込み下さい(7月31日(火)〆切)。

【お問い合わせ・お申し込みは】

内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局
(担当：中島、服井、上村、橋内)
TEL：03-6257-1414
URL: <http://www.kantei.go.jp/jp/shing/sosoni/about/ccrc/index.html>
MAIL: nihonban-ccrc.n2c@cas.go.jp

【昨年度の開催状況】

- 第1回 (2018.6.1)
 - ・ スマートウェルネス住宅等推進事業について
 - ・ 不動産証券化によるリスク分散と資金調達
 - ・ 事例紹介・意見交換会
 ※参加者 98人
- 第2回 (2018.8.24)
 - ・ コミュニティデザインについて
 - ・ 意見交換会
 ※参加者84人
- 第3回 (2019.1.10)
 - ・ 空き家の利活用と事例紹介
 ※参加者144人



まち・ひと・しごと創生総合戦略（2018改定版） のポイント（H30.12.21 閣議決定）

（オ）地方移住の推進

④「生涯活躍のまち」の推進

（前略）

今後は、各都道府県が圏域ごとにアドバイザーを配置し、広域的な支援体制を構築すること等を通じて、取組に未着手の地方公共団体の新たな掘り起し等を進める。…（後略）

新

「生涯活躍のまち」アドバイザーの養成・都道府県レベルへの配置
(H31年度～)

（前略）

このほか、企業と連携し、現役世代を含めた新しいひとの流れの創出や安定的な事業経営の在り方など、各地方公共団体のこれまでの取組や課題を踏まえた「生涯活躍のまち」の今後の在り方について、有識者や関係者の意見を踏まえ次期「総合戦略」も見据えた検討を行う。

新

「生涯活躍のまち」の在り方についての研究会のスタート

生涯活躍のまちアドバイザー（仮称）設置のねらい

- 「生涯活躍のまち」に取り組む市町村への支援体制の抜本的な強化を目指す。
- 国による支援の下、各都道府県ごとに、広域的に、地域の実情に応じたきめ細やかな支援体制を構築。
- 取組に着手した市町村のみならず、取組を検討中の市町村等に対し、より早いタイミングでニーズに応じた支援を行うことで、「生涯活躍のまち」の取組を普及（幅広い市町村への働きかけ）。

before



国

(内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局)
※生涯活躍のまち形成支援チーム

熱意のある市町村
を重点的に支援

取り組むかどうか、
迷っている自治体
に対するフォロー
が不十分



熱意のある
市町村



迷っている
市町村

after（目指す姿）



国

(内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局)
※生涯活躍のまち形成支援チーム

調査研究等で蓄積した
ノウハウを共有



都道府県（生涯活躍のまちアドバイザー）

より早い段階から
きめ細やかに支援



熱意のある
市町村



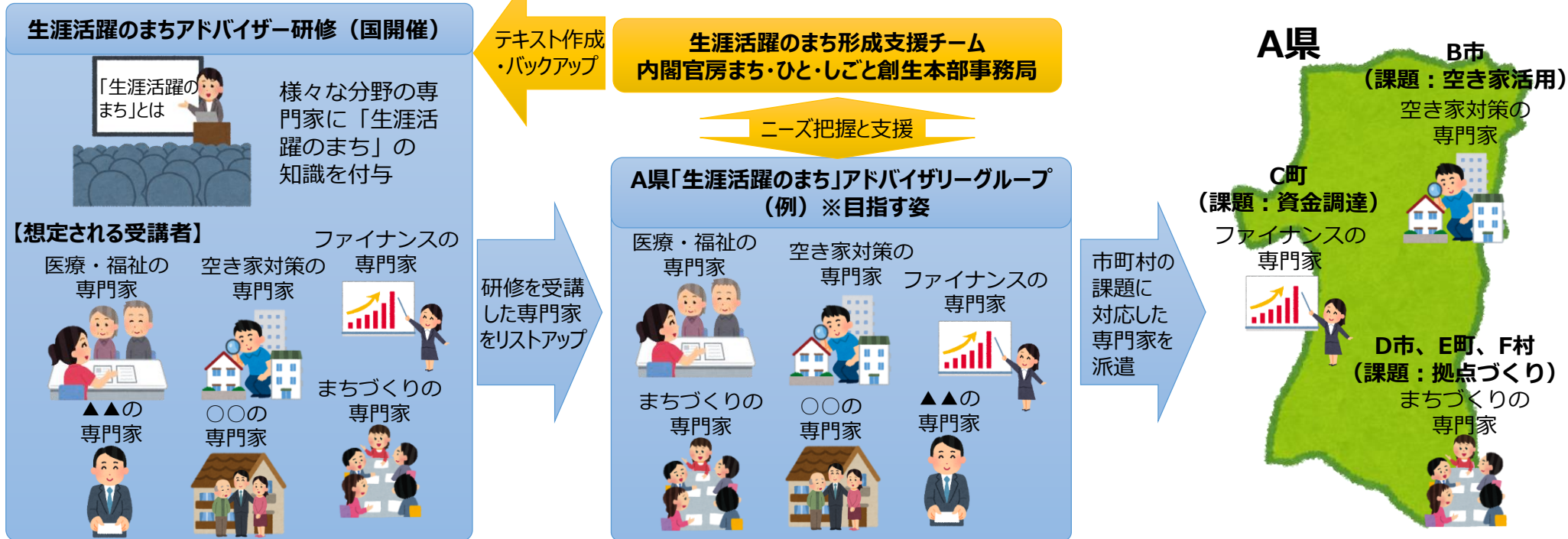
迷っている
市町村

生涯活躍のまちアドバイザーの活動イメージ（案）

まち・ひと・しごと創生総合戦略（2018改訂版）

今後は、各都道府県が圏域ごとにアドバイザーを配置し、広域的な支援体制を構築すること等を通じて、取組に未着手の地方公共団体の新たな掘り起こし等を進める。

【生涯活躍のまちアドバイザーの養成と支援スキーム（案）】



【研修に関する主な事項】（※詳細については、追って周知）

<研修科目>

- 国が定める「生涯活躍のまち」構想に関する制度の理解、アウトリーチ等の支援手法、ニーズに応える専門家等へのつなぎの手法及び地方創生推進交付金制度や他省庁分を含む多様な補助制度の基本等。

<開催場所、回数等>

- 東京都において年数回程度開催（受講ニーズによる）するほか、都道府県の求めに応じ、各地域でも開催を予定。
- 受講時間は15時間程度（2泊3日）を想定。

今年度における生涯活躍のまちアドバイザーの養成等について（案）

- 今年度における生涯活躍のまちアドバイザー養成等については以下のとおり。
- 都道府県におかれては、本方針並びに管内市町村の意向などを踏まえ、積極的に受講していただきたい。

1 各都道府県等のアドバイザー候補者に対する研修の実施

以下のとおり生涯活躍のまちアドバイザー研修の実施を予定しております。各都道府県におかれては、積極的な受講をお願いします。

- ① 開催時期、場所 第1回目は、平成31年度第1四半期を目途に東京都において行うことを予定
- ② 受講時間、日数 約15時間、3日間程度（カリキュラムは次ページを参照）
※受講料は無料といたしますが、受講者の旅費、宿泊費等は各自でご用意いただきますようお願いいたします。



2 生涯活躍のまちアドバイザー研修受講者の選定及び研修の受講

アドバイザーについては、一定の専門性を有する者（例：まちづくり、ファイナンス、医療、福祉、空き家再生等）に対し、「生涯活躍のまち」のコンセプトや制度等に関する研修を受講していただく形で養成し、アドバイザーグループを形成していただくことを想定していますが、こうした体制の構築には時間がかかることなどから、**まずは、上記専門性を有する者に対する本研修の受講によるアドバイザーの積極的な養成**をお願いいたします。

3 都道府県等における生涯活躍のまちアドバイザー研修の実施

- ① 本研修の受講の促進のため、**都道府県等単位のアドバイザー研修の開催も可能**とします。なお、平成31年度における、研修を実施する場合の講師派遣費用等は無料を予定しております。
- ② 各都道府県でアドバイザーグループによる支援体制を構築する場合の費用については、各都道府県での予算化をお願いいたします。なお、本経費は以下の要件をすべて満たす事業であれば地方創生推進交付金が活用できる可能性があります。
 - ア 地方版総合戦略に位置づけられた地方公共団体の自主的・主体的な取組であること。
 - イ 先導的な事業として、自立性、官民協働、（地域間連携、）政策間連携等の要素を有する事業であること。
 - ウ 事業毎に、ふさわしい具体的な重要業績評価指標（以下、「KPI」という。）を設定し、PDCAサイクルを整備していること。なお、KPIの設定およびPDCAサイクルの運用にあたっては、「地方創生事業実施のためのガイドライン」を十分に参照すること。



今年度における生涯活躍のまちアドバイザーの養成等について（案）

- 生涯活躍のまちアドバイザーの養成が今年度から始まるにあたって、平成31年2月26日～2月27日の2日間、「生涯活躍のまち」に関連する取組を推進する意向のある自治体から推薦のあったアドバイザー人材候補者、自治体職員及び事業者を対象に、下記のカリキュラムに基づき試行的に研修を実施。
- 本研修受講者のフィードバックを踏まえ、カリキュラムを策定。



【モデル研修カリキュラム】

	内 容	内 容
10分	開会あいさつ・オリエンテーション	
50分	基調説明（内閣官房）「生涯活躍のまち（日本版CCRC）」 地方創生をめぐる状況とその理念、現在の地方創生に向けた取組状況や関連施策のひとつである生涯活躍のまち構想の基本コンセプト、目的やねらいなどについて理解し、アドバイザー人材に求められる基礎知識を習得。	120分 講義 政策課題の整理と理解 地方創生に関連する施策で、高齢者の活躍が期待される領域として医療・職業・住環境（い・しょく・じゅう）をテーマに政策の方向性、補助金や事業について生涯活躍のまちの観点から紹介。 ①テーマ（い）「活力ある超高齢社会を作るには」 ②テーマ（しょく）Society5.0 地方都市における次世代産業育成 ③テーマ（じゅう・まちづくり・地域連携・エリアマネジメント） <講師> 後藤 純（東京大学高齢社会総合研究機構特任講師）
65分	講演「人生100年時代とごちゃませ社会」 <講師> 雄谷 良成（社会福祉法人佛子園理事長）	90分 講義・ワーク① ディスカッションテーマ「わが町を生涯活躍・人生100年時代の観点から点検する」 <ファシリテーター> 後藤 純（東京大学高齢社会総合研究機構特任講師）
60分	講演「人生100年時代のコミュニティデザイン」 ～人口減少社会に向き合う地域社会～ <講師> 山崎 亮（studio-L代表）	75分 講義・事例紹介 生涯活躍のまち推進マニュアルで提示された、3+1の要素（「住まい」「ケア」「活躍」「移住」+「コミュニティ形成」）の事例の紹介、構想を推進していくための体制づくり、ビジネスモデルの事例等を学ぶ。
60分	クロストーク 雄谷 良成 x 山崎 亮 福祉とコミュニティデザイン ～ごちゃませ共生社会で創る日本の未来～	120分 講義・ワーク② ディスカッションテーマ「生涯活躍のまちに取り組む最初の一步を考える」 <ファシリテーター> 後藤 純（東京大学高齢社会総合研究機構 特任講師）



クロストーク中の雄谷氏（手前）と山崎氏（奥）

まち・ひと・しごと創生総合戦略（2018改定版） のポイント（H30.12.21 閣議決定）

（オ） 地方移住の推進

④「生涯活躍のまち」の推進

（前略）

今後は、各都道府県が圏域ごとにアドバイザーを配置し、広域的な支援体制を構築すること等を通じて、取組に未着手の地方公共団体の新たな掘り起し等を進める。…（後略）

新

「生涯活躍のまち」アドバイザーの養成・都道府県レベルへの配置(H31年度～)

（前略）

このほか、企業と連携し、現役世代を含めた新しいひとの流れの創出や安定的な事業経営の在り方など、各地方公共団体のこれまでの取組や課題を踏まえた「生涯活躍のまち」の今後の在り方について、有識者や関係者の意見を踏まえ次期「総合戦略」も見据えた検討を行う。

新

「生涯活躍のまち」の在り方についての研究会のスタート

「地方創生×全世代活躍まちづくり」検討会について

(1) 「地方創生×全世代活躍まちづくり」検討会【検討事項】

- 誰もが居場所と役割を持つ「全世代」が「活躍」する支え合いコミュニティづくり。

例：活躍（しごと・社会参加）、地域内経済循環、多世代交流・地域共生・包摂社会（ごちゃまぜ）、企業等と連携した人材の地域間循環や移住の推進 等

※都市圏、地方、中山間地域といった地域類型等も考慮。

(2) 「地方創生×全世代活躍まちづくり」検討会メンバー

- 五十嵐 智嘉子 （一社）北海道総合研究調査会理事長
- 松田 智生 （株）三菱総合研究所プラチナ社会センター
主席研究員 チーフプロデューサー
- 池本 洋一 （株）リクルート住まいカンパニー SUUMO編集長
- 雄谷 良成 （福）佛子園理事長
- 大須賀 豊博 （福）愛知たいようの杜理事長
- 大原 裕介 （福）ゆうゆう理事長

※○印委員は、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定に関する有識者会議（親会議）委員を兼ねる。